

## ワカヤマソウリュウ編

ーモササウルス以外の脊椎動物ー

脊椎動物とは、背骨のある動物のことで、魚類・両生類・爬虫類・鳥類や哺乳類などがいます。絶滅した恐竜類も脊椎動物に含まれます。

海の爬虫類であるモササウルスの一種、ワカヤマソウリュウの発見で注目されている有田川町ですが、実は鳥屋城山とその周辺地域において、ワカヤマソウリュウの他にも脊椎動物の化石が発見されています。

それは、ウミガメとサメです。ここでは、ウミガメの化石について紹介します。

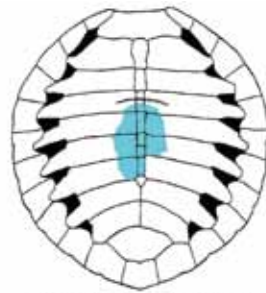
## ●ウミガメ、メソダーモケリス

ウミガメは中生代末の大絶滅を生き延び、今もその子孫を見ることが出来る海の爬虫類です。化石では、甲羅の長さが3mくらいあるアーケロンが有名です。

有田川町では、メソダーモケリスという種類の甲羅の化石が見つかりました。ワカヤマソウリュウが発見された鳥屋城山を形作っている鳥屋城層と呼ばれる地層から見ついていますので、ワカヤマソウリュウと同じような時代に生きていたものと考えられます。

このメソダーモケリスは、甲羅の長さが85cmくらいのウミガメで、現在のオサガメに近い種類と考えられています。オサガメはクラゲのような柔らかい生き物を食べていますが、メソダーモケリスは顎の筋肉が発達しているの、貝や甲殻類を食べていたと考えられています。

北海道で保存状態のよい化石が見つかっており、離れた地域ではありますが、時代や生息地域の関連性があることが分かります。有田川町の近隣では、淡路島の洲本市でも頭骨が見つかっています。



甲羅の復元図(原図:平山譲)  
(発見された化石は水色部分)



イメージ図(©Takumi)



有田川町で発見された  
メソダーモケリス属の化石写真  
(写真提供:和歌山県立自然博物館)